

令和7年度 和歌山市立高松小学校スクールプラン

校長名 藤原 ゆうこ

令和 7年 5月1日

和歌山市学校教育目標

- ・確かな学力の育成 ・道徳教育の充実
- ・健やかな体の育成 ・特別支援教育の充実
- ・不登校・いじめ問題の解消
- ・子供の安全確保の徹底
- ・地域とともにある学校づくりの推進

保護者・地域の願い

- ・学校と地域が共に児童を見守ってほしい。
- ・児童が楽しく学べる環境づくりに、引き続き取り組んでいただきたい。
- ・休憩時間を含め、運動を行うことで児童たちの体力作りをすすめてほしい。

【学 校 教 育 目 標】

豊かな人間性と自ら学ぶ意欲を持ち、
たくましく生きる子供を育成する

【めざす児童（生徒）像】

- ・やさしい子 自分や友達のよさに気づき、認め合える子供
- ・考える子 自分の考えと比べながら、人の話を聞く子供
- ・じょうぶな子 進んで元気に仲間と遊ぶ子供

前年度の学校評価

- 確かな学力の向上に向け取り組んでいる。
- 縦割り活動、読書活動等の充実は望ましい。さらに深めてほしい。
- 地域に密着した学校づくりができています。

児童の実態

- 素直で優しく、読書好きな子供が多い。
- 休憩時間は外で元気よく遊ぶ児童が多いが、運動場スペースの都合上、おにごっこ等は曜日・時間での制限を設ける必要がある。
- 学力面では上位層が多い一方で、個別支援が必要な児童、常に寄り添っての支援が必要な児童が増加している。

重点目標

確かな学力の向上

- ◎子供が主語になる授業の推進
- ◎読書活動の推進

豊かな心の育成

- 道徳授業の充実
- ◎高松っ子としての自覚と愛校心、仲間意識を育む
- 縦割り活動の推進

健やかな体の育成

- ◎基本的生活習慣の確立
- 体力向上の推進
- 安全教育の推進

地域とともにある学校

- ◎学校だよりやHPによる発信
- 地域や保護者、PTAと「子供の成長」をともに見守る意識を共有した連携の充実

具体的な取組

- ◎「子供がやりたい」と感じる授業づくり → 導入の工夫、単元構成の工夫、ほんまもん体験等。
- 「高松マスト」の充実 → 課題に焦点をしばった復習の復反、「書く・読む」活動の充実
- うちどくの充実 → 「うちどく王」の奨励、「暗唱博士」への取り組み
- 県立図書館の活用等を通して学級文庫の充実を図る。
- ◎居心地のよい職員室 → 同僚性の構築とモデルリーダーのリーダーシップが発揮できる職員室環境づくりを目指す。

- ◎子供が互いのよさを認め合える、ちがいをわかりあえる学級経営 → 自己肯定感を育む言葉かけを教師が意識し、子供に伝えていく。
- 安心できる居場所づくり → コミュニティルームや校長室の有効活用に取り組む。
- ◎いじめ・不登校対策委員会の設置 → 定期的に行い、全職員での共有とチーム体制での取り組みを進める。
- 縦割り清掃やペア学年交流の充実 → 異学年交流によるリーダー育成をはかる、児童会・委員会活動の推進等の充実を図る。

- 「早寝・早起き・朝ごはん」の推奨 → 児童と共に、保護者へのよびかけも実施する
- 屋外での活動の充実 → みんな遊びを実施したり、教師が一緒になって外で遊ぶ。
- 避難訓練を計画的に実施 → 4月初めに、教職員が意識を共有し、年間を通して、緊急下校、地震火災、つなみ、不審者対応の訓練に取り組む。
- ◎食育の充実 → 栄養教諭や担任等による食育授業やに取り組む。

- ◎学校行事や授業での様子や取り組みを、わかりやすく密に、学校だよりやHPで発信していく。
- 図書ボランティアと連携して、魅力ある学校図書館づくり、読書活動の充実を推進する。
- 地域にある「人・もの・こと」を適切に活用し、特色ある取り組みを進めていく。

指標

- 「学習がよくわかる」 → 児童 8 割以上
- 「指導の工夫・改善・評価をしている」 → 教師の 8 割以上

- 「学校が楽しい」「学校へ行くことを楽しみにしている」 → 児童 9 割以上

- 「ほぼ毎朝朝食をとっている」 → 児童 9 割以上
- 「成長に合わせて食への関心を高める指導を行っている」 → 教師の 9 割以上

- 「学校だより・学年だより・HP等により、教育活動の様子を知らせている」 → 保護者 8 割以上

◎：特に重点的に取り組むこと